

表1 個体及び経歴持性の概要

児童名	T・N	生年月日	1969. 4 生	性別	男
家族構成	父方祖父・母, 父, 母, 兄				
身体的障害	先天性牛眼 (緑内障), 全盲 (失明原因不明) <3歳時まで暗室で懐中電灯をつけると, 明りを追った。> 眼科, 内科, 小児科, 耳鼻科, 神経科の諸検査を受けたが, 眼科以外異常なし (1975)				
病歴	生後10日目, 第1回眼科手術をはじめ2歳までに8回手術, (眼圧を下げるため)。この間, 各手術後約1か月は副木で 両腕を固定。寝たきりの状態。				
教育歴	2.5歳~3.5歳: 肢体不自由訓練会で歩行訓練 (週2回) 3.5歳~4歳: コトバ治療教室, 「マンマ」「イヤ」「ブチャ」 (水のこと) をときどき発するようになるが, 激しく泣い て拒否するようになったため5か月で中止した。(週1回)				

上げ、T・Nがそのコトバを発声した
ら与えるなどである。約五ヵ月通って
四語を発するようになったが、通学を
泣いて拒否したため、通学を中止
した。

(三) 失敗の原因

コトバの治療教室で行った指導の基
本は、次のように推察できる。コミュ
ニケーションの様式は音声系、構成原
則は分子合成(後述)という信号系を
採用し、音声(ことば)と音声がかさ
し示す事物との連合を図ることである。
ところで、通学を中止しなければなら
ない事態を招いた原因は何か。一つに
は、言語音の構成は、微細な運動の調
整が要求され、(一)の経歴特性から察す

るに、T・Nに対する学習の要求水準
が高すぎたことが考えられる。もう一
つは、盲児であるT・Nにとって、いつ
たん取り上げられるのは、「無」を意
味し、コトバとの対応をことさら困難
にしていたことも指摘できそうであ
る。

(四) 指導内容の検討

しゃべらないからしゃべらせるとい
うことが、この時点でT・Nの生活
をどれだけ支えることになるだろう
か。T・Nは、自発的に外部からの情
報を取り込んだり、外部環境に働きか
けたりして、多様な活動を展開させ
る状態にない。そこで、生命活動に繰
り込まれる交信行動(コミュニケーション)を更に追求して行く必要上、
まず信号系活動に関して、重要な局面
について考察しておきたい。

1、信号の流れの別(受信・発信)
一般に、言語の果す機能として、①
意思伝達、②行動調整、③思考などが
指摘されるが、梅津田は交信行動を次
のように定義している。

「生体Aのある型の行動 α が生体Bに
おけるある型の行動 β を起す信号と
なっていると考えられる時、AとBと
は『交信関係にある』とし、この時の
Aの行動を『発信行動』、Bの行動を『受
信行動』というし、また、Aの起す α の
刺激特性を『信号』と呼ぶこととする」。

つまり、交信行動は、その個体の生
体系の内外に関して、過不足ない状態
にあるときは発動しない。換言すれば、

意思とは、行動体制の発現・展開に關
して妨げとなる事物・事象が存在する
状況においてのみ発動するのである。

(注) 梅津八三(比較心理学) 東京大学名
誉教授。独創的な仮説により盲聾二
重障害児の言語行動の形成に成功。
その理論は、ち密で、海外で高い評
価を得ている。

2、流れの方向に關与する主要活動部

分 別 (1) 受信行動に關する感性様相系の
別

- 視覚系 ○聴覚系 ○触覚系
- 味覚系 ○嗅覚系
- 発信行動
- 運動系(発声運動系、四肢運動系などに分けられる。)
- 分泌系(汗、涙など)

3、信号源の別 その信号の発信源が
生体内部か、生体外部かのいづれにあ
るか別で、さらに生体の外部なら、
生体、非生体の別も含む。

4、信号系発生の別(自成・構成)

乳幼児が泣くのは自成信号であり、
コトバを話すのは構成信号である。従
って、足音、におい、癢、汗、涙(俳
優の演技上の涙等は該当しない)など
は自成信号にあたる。構成信号は、自
己の運動に關係する生体の身振りの型
あるいは声を使うなどの活動および何
かの材料を使って特殊な型を使つたも
のをさす。

5、構成原則の別(特に構成信号につ
いて)

ここで、構成信号系に關して種別ご
とに少し説明しておく。
2・1象徴信号系(表2参照) 信号部分
と事物・事象との間に、なんらかの類
似がある。さらに二つに分けられる。

2・1・1表内象徴信号系
自分が発信して自分自身が受信す
る時だけ機能をする信号系である。
心像、表像、知覚像、夢などがこれ
にあたる。第三者には受信できない。

2・1・2表出象徴信号系
身振り信号として使われる多くの身
振り、絵画、音楽など当事者以外の
第三者に対しても発信できる信号系
である。擬態語、擬声語、象形文字
などもこれに該当する。

2・2型弁別信号系 2・2・1に対して、
非象徴信号系ともいえる。信号とそ
れに対応する事物・事象との間に、
類似性がほとんどない。信号を構成
する際の特性をはつきり示すための
命名である。
2・2・1形態質信号系

表2 構成原則による
構成信号系の分類
(UMEZU, H.1974)

